



ひげのスコープ!

Scope of beard

朝起きて、筆者が、先ずいくとこ、すること。

2、3のいくとこようは省略し、玄関の郵便受けから、新聞を手、狭い居間へ、とから。

先ずは、一面からすべての紙面を、時間をかけずに、目を通す。次いで、興味関心の強かった記事を順次、時間をかけて、読む。時には、切り抜いたり、デジタル化したりの作業。これには時間

がかかり、筆者に時間マネジメント力の欠如を思い知らす。故に、早朝の、特に民放テレビ各局朝刊各紙比較コーナーは、ながら視聴の良き友である。

新聞は、マスメディア4強の一角。ところが、今や、スマートフォンに

代表されるパーソナルメディアの台頭が要因の一つで、紙媒体としてのその地位が揺らいでいるという。

総務省の平成28年版『情報通信白書』には、調査対象者年齢10代から60代全体では、テレビ(リアルタイム)視聴、ネット利用、テレビ(録画)、ラジオ聴取、新聞閲読の順に、平日1日の平均利用時間が少なくなる。また、NHK放送文化研究所の調査「テレビ視聴とメディア利用の現在—日本人とテレビ・2015—」は、2015年は2010年と比べ、新聞は「毎日」が減少し、「週1日以上」も減少とある。

そんな折も折り、去る平成29年3月31日に告示された小学校と中学校の学習指導要領。総則の記述内容の一つに、目が釘付けとなった。

何故かって?!…

昭和22年度の試案から現行学習指導要領まで、総則には、一度として記述されることがなかった“各種の統計資料や新聞”が明記されているからである。いづこへの忖度があっただろうとか、どこか団体から、何らかの力が働いたであろうなどは、思わない。その理由は、一つには、試案から、国語

科編と社会科編、そして算数・数学編に、新聞の読み方、切り抜いての使い方、統計の作成法や利用法などが記述されていること。そして、もう一つ。本協会制作のDVDビデオ『スマホの落とし穴』の6つのテーマにあるように、その無防備なまでの利用が、大きな社会問題となってきているからである。

目の前に広げられ紙媒体の新聞では、その大き

な紙面の内容は、広い視野で全体を俯瞰する方略で、読み取られる。一方、スマホやタブレットでは、小さな画面に表示された画像をアタマの中で、ジグソーパズルよろしく、つなぎ合わせ、見て撮られる。後者では、前者以

上に、2段階、3段階、あるいはそれ以上の段階を経た情報処理が、瞬時にやってのけられる様。後者を考えるに、そんな芸当ができるように、特に今時の若い人には、独特な才能が備わっているとしか思えない。ただし、情報処理の観点からは、読み取った、あるいは、見て撮った、個々の情報が、読者あるいは見者によって紡ぎ組み合わされ、一人一人独自の知識に仕立て上げられることに変わりはない。

新しい学習指導要領の総則に新聞が明記されたことを、筆者は、教育課程の実施と評価、つまり、教育活動すべてで、新聞が、併記された統計資料と教材・教具を超えたメディアとして扱われることと、期待したい。このことが、電子教科書やeラーニングなどを構成する画像メッセージの特質と質の両者にいっそうの関心を高め、一人一人の学習者に鋭敏に反応する教育システムの要因の特定と改善をますます刺激し、その制作と活用および評価が、異種格闘技よろしく、今以上に教科横断的に組織的に展開されること、展開することを予測させるに十分だからである。

きょうようと
きょういくのままに

8

東京学芸大学名誉教授 篠原 文陽児